

2023年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 災害ボランティア愛・知・人
 代表者・役職名 氏名 代表理事 赤池博美

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

南海トラフ地震に向けて 珠洲市から学ぶ

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。
 会員数など。180文字程度まで)

2011年3月、東日本大震災をきっかけにアウトドア仲間20名と義援金を集め被災地に寄付。同年4月団体を設立しGWに石巻市ボラセンにて活動。その後、全国各地で起きた災害に長期滞在型で対応。屋根上や床下、重機作業ができる技術を持った方と寄付や地元活動で支えてくれる後方支援のメンバー800名が登録。平時は社協や企業から講習講演会を受託し、伝え広げる活動をしています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

愛知人の認知度も高まり講習・講演を受託するようになり、近隣社協さんとは「顔の見える関係」を築けております。今回は南海トラフを見据え、1年で2度も大地震を体験した珠洲市の災害ボラセンの運営や課題を学び、参加された社協さんや多種多様なNPOが集まる交流の場を提供することも目的の一つです。また被災地の方が出演するドキュメンタリー映画を上映し、広く市民の方にも災害を他人事にしない意識づけをしたいと考えました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

午前中は珠洲市の被災から復興への道のりを描いたドキュメンタリー映画の上映会。珠洲市内の発災直後の映像や家屋・道路の損壊状況から震災の恐ろしさを身近に感じて頂き、備える大切さを学び、復興には「人のつながりの大切さ」を訴求。昼食時には「珠洲のじいちゃん」という映画を上映し珠洲市在住の主演俳優(刀狩田氏)をゲストに迎えトークショーを実施。午後は、愛知人の活動報告のあと、珠洲市社協の神徳氏の講演会。また、珠洲焼の研修生を招き、今後は観光で来てもらえるような珠洲市の紹介。愛知人の刻印を入れて製作頂いた珠洲焼の小物プレゼントを企画しました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

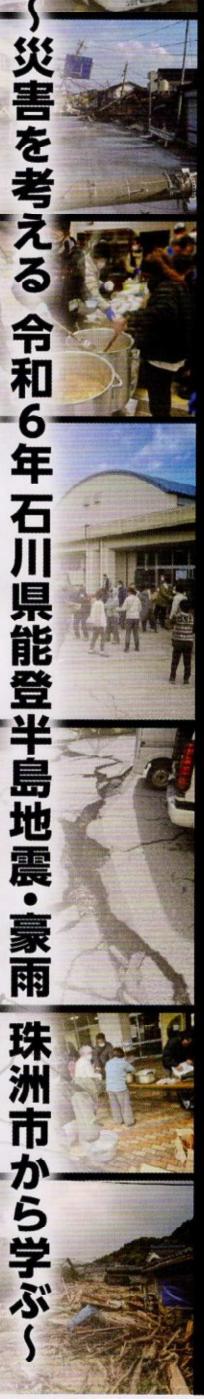
参加者は社協職員3割、NPO関係者と議員さんで2割、一般市民5割で総数120名。告知はSNS、HP、春日井社協、ささえ愛センター、町内会のご協力によりますますの集客。昼食時は、珠洲市への応援社協参加者が神徳さんとの再会を楽しみに来て下さり、社協さん同士やNPOの皆さんとの交流の場になりました。また市民の方も南海トラフの可能性が高まっている中、「他人事ではない」と思う方が増えているように感じました。珠洲焼の展示も好評で、手に取って頂いたことで観光誘致もでき「被災地を忘れないでほしい」という思いを伝えることができたと思います。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

災害支援活動と並行したプロジェクトのため、活動状況とこの規模の会場予約が困難を極め開催時期を2度も変更をお願いする事態になりましたが、快くお認め頂き感謝しております。毎年起きる災害はどれ一つとして同じではないですが、これまでの経験を活かし、日々試行錯誤、切磋琢磨に務める愛知人メンバーの知見を今後も「広げ・伝え」て行く活動をしていきたいと考えています。災害ボランティアに関わっている方のみならず、市民の皆様を巻き込み、災害大国である日本中の人に「災害を他人事にしない」という意識を持っていただくことが大切だと考えています。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、必ず、別途、ご提供ください

令和6年能登半島被害



災害を考える 令和6年石川県能登半島地震・豪雨

珠洲市から学ぶ

午前の部

9:30~11:15 有馬尚史氏ご挨拶、上映会

ドキュメンタリー

映画「風が灯るころ～奥能登、珠洲の記憶～」上映会



2023, 2024年 製作



■監督／撮影／編集

有馬 尚史 Arima Hisashi

1987年生まれ、千葉県出身。2011年に多摩美術大学に入学。同年より映像作品の制作を開始。13年に制作した長編作品をきっかけに大木一史氏の制作に関わり、同氏に師事。2023年5月に起きた地震からの珠洲の復興の様子を撮影するなか、翌年元旦に発生した「令和6年能登半島地震」によって自身も被災。

【映画紹介】 令和5年5月5日、最大震度6を記録した珠洲市。この被害から復興を目指していた矢先、翌年元旦に、再び珠洲市を地震が襲う。度重なる地震によって壊滅的な状況に陥った珠洲の人々は、それでもまた立ち上がろうとしていた。二つの地震と町の再生を取材したドキュメンタリー映画。

本当の意味での「春」がくる事を
わたしたちができる事を

11:15~13:00 昼休憩

会場内は飲食可能です。

11:45~13:00

映画「珠洲のジイちゃん」上映会

2012年 製作

午後の部

13:00~13:30

石川県珠洲市の活動報告



■災害ボランティア愛・知・人 代表理事

赤池 博美 Akaike Hiromi

愛知県春日井市在住。2011年の東日本大震災をきっかけに災害ボランティア愛・知・人を設立。その後毎年起きる水害や地震の被災地で活動。被災地には発災3日以内に向かい、現地社協さんと連携して被災家屋の復旧支援活動をしている。平時は社協・企業から講演・講習会の依頼を受け、災害ボランティアの裾野を広げ、技術を伝承する活動を行っている。

13:40~15:30

令和6年能登半島地震の支援活動を通じて、中長期化する被災地支援と社協の役割



■社会福祉法人 珠洲市社会福祉協議会(災害ボランティアセンター&珠洲ささえ愛センター)

神徳 宏紀 Jintoku Hiroki

珠洲市生まれ。市内の小中高に通い、高校卒業後は金沢市の企業に勤務。2017年に珠洲市へ戻り、珠洲市社会福祉協議会に入職。2022年の地震時に災害ボランティアセンター、2023年と2024年の地震時は災害ボランティアセンターとささえ愛センターを担当。

【映画紹介】 2011年に国内初の世界農業遺産に認定された里山里海を有する能登半島。その最北端「珠洲市」で撮影された日本の原風景と珠洲の人たちによるひと夏のハートフル映画。(主人公)刀狩田利雄氏と、(監督・脚本)水上猛之氏は、珠洲市出身。能登半島地震の復興応援として全国各地域で再上映。

珠洲焼の展示

▶9:30~15:30



■出典／珠洲焼の研修生

金丸 聖 Kanemaru Sei

1980年山梨県中央市生まれ。2003年奈良芸術短期大学専攻科陶芸コース卒業。2003年から身延窯 故竹下明宏氏に5年間師事。その後、独立。2011年陶工房 聖(ひじり)を開窯。2023年珠洲市へ移住し、珠洲焼の研修生となる。現在、珠洲焼基礎課程2回生。



珠洲焼の小物プレゼント(限定100個)

令和7年1月12日(日)

春日井市総合福祉センター2階 大ホール

9時30分~15時30分(開場:9時15分)

【午前の部】9時30分~11時15分 / 【午後の部】13時00分~15時30分

【主催】災害ボランティア愛・知・人 【後援】社会福祉法人 春日井市社会福祉協議会

【協賛】真如苑「市民防災減災助成」【問合せ先】090-9231-0827(愛知人事務局・萬谷裕美子)

入場無料



参加お申込みは→
右のQRコードから
お願い致します!!

災害ボランティア愛・知・人の活動にご協力ください

愛知銀行

春日井支店【普通】2047764

アイチジン ダイヒヨウ アカイケヒロミ

ゆうちょ銀行

12020 14313801

サイガイボランティア アイ・チ・ジン

SoftBank

「つながる募金」

災害・復興支援▶愛・知・人で検索



愛・知・人 HP

災害ボランティア

Our affection has no limits

愛・知・人

小さな気持ちを伝え・広げ・届ける
Convey, spread, and deliver small feelings

能登半島地震 珠洲市活動報告

災害ボランティア愛・知・人
代表理事 赤池博美



・ボランティア